

## 第6回

### 視対象の整備について

技術士（森林部門） 由田 幸雄



#### はじめに

景観は視点と視対象（したいしょう）との関係で成立しています。よって、景観整備の内容は、視点の選定や視対象の整備などになります。しかし、森林景観整備では視対象の整備は基本的に考えなくてもよいのです。本稿では、最初にその理由を説明します。次に、それでも視対象の整備を行おうとする場合は、どのようなことが考えられるのかを説明します。

その前に視対象について説明します。

視対象とは眺められる対象のことです。図1は人（視点）が山などを眺めている様子を模式的に示したものです。この図において視対象は、山（主対象）、湖（副対象）、それらの背景となっている森林になります。山などを眺めたときに、すぐその前（視点場）の状況も目に入ってきますが、それは視対象には含まれません。視対象は視点から見えているもののすべてではありません。

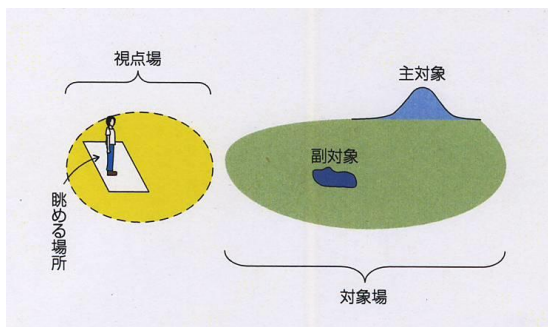


図1 視対象のイメージ

#### 1 視対象の整備は考えなくてもよい

日本庭園では通路のまわりを中心によく整備されているので、景観整備とは眺められる対象を整備することだと思っている人が多いのではないのでしょうか。しかし、山地において展望台等から眺める場合は視対象の整備は基本的に考えなくてもよいのです。この違いが生じる大きな理由としては、次の2つがあげられます。

ア 眺める対象までの距離（視距離）が大きく異なること

イ 山地では自然らしさが求められること

アの眺める対象までの距離についていえば、日本庭園では数メートルから数十メートルなのに対して、山地では数百メートルから数キロメートル以上と桁違いです。視距離が大きくなればなるほど対象範囲も広大になるので、それを対象にして整備するのは実際上、困難です。またその必要性も感じません。

イの自然らしさについては、日本庭園内にある樹木（マツやツツジなど）はよく手入れされています。しかし、山地では自然らしさが求められるので基本的に眺める対象には手を加えない方がよいのです。手を加えると自然感が損なわれてしまうからです。

以上のうちアの眺める対象までの距離が大きくなると整備が難しくなることを写真で説明します。

**写真1**は、小石川後樂園（東京都文京区）の通路から築山（小廬山）を撮ったものです。築山は全面がオカメザサ（竹）で覆われているので冬季でも青々としており、大変印象的です。また、オカメザサがよく手入れされているので整然とした眺めになっています。この築山までの距離は30メートルほどです。

この眺めを維持するため、庭園ではオカメザサの手入れや雑草の除去などのほか、オカメザサの活力を維持するために3～4年ごとにその全面を刈り払っています。整備する範囲はそれほど広くありませんが、それでもかなりの労力を必要とします。



写真1 竹で覆われた築山の眺め

次は山地の例です。**写真2**は栃木県奥日光の西ノ湖（さいのこ）から男体山を撮ったものです。水面（湖）の奥には樹林が、さらにその奥には男体山が見えています。対岸の樹林までは400メートル、男体山までは8キロメートルほどあります。



写真2 西ノ湖西岸から男体山を望む

このように眺める対象までの距離が遠くなると、その範囲は広大なので整備しようという気も起きません。また山地の自然度の高いところでは景観のために森林に手を加えることには抵抗があるでしょう。

以上のことから山地の自然度の高いところでは視対象の整備は必要のないことが分かります。

## 2 視対象を整備するときの考え方、やり方

森林景観整備では、基本的に視対象の整備は考えなくてもよいのです。しかし、整備するとしたら、それはどのような場合でしょうか。また、どのような考えで行えばよいのでしょうか。

一つは、眺める対象が視点近くにある場合です。対象までの距離が近いと整備する範囲は限られるので、その整備は比較的容易になるからです。

また、眺める対象が視点から離れている場合でも、樹林を整備することによって見て分かりやすい眺めになるときは実施することが考えられます。ただし、視対象である森林を整備すると眺めの評価が分かれる場合があるので、実施するときは何を見たい（見せたい）のかを明確にする必要があります。

以上述べたことを順次説明します。

### 2.1 眺める対象が近い場合の整備について

眺める対象が視点の近くにあると、その実施は比較的容易になります。この事例として私（筆者）が体験した2つを紹介します。

最初は景観に配慮して、歩道沿線にシラカンバとカラマツの混交林を造成した事例です。

**写真3**は歩道からそのまわりの樹林を撮ったものです。黒い樹幹はカラマツで、白のはシラカンバです。普通は、このような混交林を見ることはありません。



写真3 歩道沿線の眺め

この混交林は自然にできたものではありません。カラマツ林にシラカンバが侵入してきたときに、それを取り除かないでカラマツを間伐したので出来たものです。そうしたの、ここはハイキングコースとして多くの方に利用されていたので、ここを管理する日光森林管理署は景観に配慮してシラカンバを見せることにしたのです。ここではカラマツの間伐を繰り返すだけなので、実行は比較的容易です。しかし、それでも混交林が造成されるまでには長期間を要しました。

次は多くの人に見てもらうためにヤマツツジを整備した事例です。

**写真4**は福島県小野町の高柴山国有林内に整備されたツツジ山を撮ったものです。



写真4 高柴山国有林のヤマツツジ群落

見渡す限りツツジの赤い花が咲いており、見事です。奥に見える樹木はアカマツで、それ以外はすべてヤマツツジです。これ

は立派な花を咲かせるためにヤマツツジ以外の草木はすべて刈り払われたためです。このため地面は芝生になっており、どこにでも座って休みながら眺めることができます。ヤマツツジ群落の花は壮観です。しかし面積が広いので、その手入れには多くの労力を必要とします。ここでは、地元の住民50人ほどが毎年刈り払いして、この眺めを維持しています。

視対象の整備事例を2つ紹介しました。特徴的なことを2つあげます。一つは、これらは人が歩道を歩きながら見る眺め（シーケンス景観）に配慮して整備されたものです。日本庭園と同様、眺める対象が近いので整備が比較的容易になっています。

もう一つは、2つとも見せたいもの（シラカンバ、ヤマツツジ）には全く手を加えないで、そのまわりを整備していることです。この理由は、山地では日本庭園とは違い、自然らしさが求められるからです。例えばヤマツツジは、枝を剪定すればより多くの花を咲かせることができます。しかし、そうすると人工的な樹形となり、自然らしさが失われるので山地ではなじまないのです。

以上の事例からも、①視対象の整備は時間と労力を要し難しいこと、②山地では自然らしさが求められるので眺める対象に手を加えない方がよいことが分かります。

## 2.2 眺める対象が離れているときの整備の考え方

山地の展望台等から見る場合は、眺める対象までの距離が大きくなるので眺める対象の整備は難しくなります。この場合はどのような整備が考えられるでしょうか。

整備の考え方としては、人間に共通する景観の価値の「眺めているものが何であるのかすぐ分かる方がよい」に基づいて実施することがあげられます。この景観の価値は、究極



的には自分の生存にかかわる重要なことです。例えば、山地の見晴らしのよいところで、下方を眺めたときに黒いものが見えたとして、晴れているのに何故傘をさしているのかと思いつつ見ていたところ、それが目の前に現れたらクマだった、というのでは自分の命が危うくなります。だから眺めているものが何であるのかすぐ分かった方がよいのです。

このことを写真でもって説明します。

**写真5**の2枚は樹林を撮ったものです。

この2つを見比べると（下）の方がよいと思います。それは何故かという、根元（樹幹）が少し見えているので、すぐに樹木だと分かり、その太さや本数などもおおよそ分かるからです。



写真5 樹林の眺め

一方、（上）は樹幹が見えないので樹林であることが分かりにくくなっています。眺めているものが何であるのか、考えなくてもすぐ分かる方がよいのです。この事例からは、込みすぎている樹林は本数を少なくして樹形や樹

幹が見えるようにすると分かりやすい眺めになることを示しています。

もう一つの事例を紹介します。

**写真6**の2枚は清水寺の本堂を隣にある奥の院から撮ったものです。2つを見比べると（下）の眺めの方がよいと思います。何故かという、（下）は舞台を支えている柱が見えるので眺めているものが清水寺の本堂（舞台）であることがより明確になるからです。また舞台の高さもよく分かります。よく「清水の舞台から飛び降りる」ということを耳にします。それは、思い切って大きな決断をすることのたとえですが、（上）の眺めからでは、この言葉の意味が分からないでしょう。（下）の眺めから、その高さが分かり、はじめてその意味を理解できるのです。



写真6 清水寺本堂の眺め

なお、柱が見えるようになったのは、舞台の下方に植栽されていたモミジが取り除かれたためです。

### 2.3 景観の価値に基づく視対象の整備

視点から離れたところにあるものを整備するときは「眺めているものが何であるのかすぐ分かる方がよい」に基づいて行うことを説明しました。これによって、どのような効果があるのかを2つの事例で示します。

写真7の2枚は、六義園（東京都文京区）の展望所（藤代峠）から異なる時期に庭園内の同じところを撮ったものです。



写真7 六義園展望所からの眺め（80mm）  
（上）平成19年撮影（下）平成30年撮影

（上）の写真は平成19年に撮ったものです。六義園を訪れると、最初に大きな水面（池）と島が見えます。そのため展望所から眺めればさぞかし素晴らしいだろうと期待します。しかし展望所からの眺めは、写真（上）のとおり樹木が多すぎて、すっきりとした眺めにはなっておらず、期待外れでした。中央に池が垣間見えていますが、それがどのように広がっているのか分かりません。この眺めをよくするためには樹木を整理する必要があるま

した。（下）は平成30年に撮ったものですが、中央に水面が見え、島の形もよく分かるようになり格段に見て分かりやすい眺めになりました。こちらの眺めの方が好ましいと思います。この違いをもたらしたのは、（上）の写真の池の手前に見えている樹木2本が取り除かれたためです。たったそれだけで眺めが大きく変わりました。ただ、これは、展望所からの眺めをよくしようとして行われたものではありません。庭園を昔の姿に戻すために以前にはなかった樹木を取り除いたことによるものです。（上）の写真では池の手前で眺めている人がおり、その前に柵がありますが、この柵も取り除かれています。

もう一つの事例を紹介します。

写真8の2枚は、日光市藤原地区にある富士見展望台から異なる時期に撮ったものです。

（上）は道路の右奥にある樹林を整備する前に撮ったものです。（下）は樹林を整備した後に撮ったものです。ともに左奥には日光連山が、手前には道路が見えています。



写真8 富士見展望台からの眺め  
（上）整備前（下）整備後



この2つを見比べると、(下)の眺めの方が好ましいと思います。何故かという、(下)の眺めでは、道路がヘアピンカーブしていることや、ヘアピンカーブ内側の樹木の太さや本数がおおよそ分かるからです。つまり、眺めているものがよく分かるようになったのです。この眺めの違いは、ヘアピンカーブ内側にある樹林から低木だけを取り除いたことによるものです。ただ、これも、展望台からの眺めをよくしようとして行われたものではありません。実際は、道路からヘアピンカーブの見通しをよくするために行われたものです。その結果、展望台からの眺めに大きな変化が生じたのです。

この事例では、樹林の奥にある道路線形が全く見えていないので整備しようとする考えも思いつかないでしょう。六義園の事例のようにある程度見たいものが見えていないと整備するのは難しいでしょう。

## 2.4 視対象の整備は評価の分かれる場合がある

視対象の整備は難しいのですが、さらに整備すると問題が生じる場合があります。それは整備すると眺めの評価が分かれる場合があることです。これを自由の女神像（東京都港区台場）の事例で説明します。

写真9は、台場にある自由の女神像を異なる時期に撮ったものです。(上)の写真では中央に女神像が、その奥にレインボーブリッジが見えています。(下)は手前にある街路樹が剪定された後に撮ったものです。この写真では、女神像の台座が見え、その高さが分かります。また、女神像の奥には水面（海）が、そして手前には空中歩道と歩道が見えています。この2つの眺めから受ける印象はかなり違います。自由の女神像をじっくり見たいと思う人は、街路樹が地（背景）となり、女神像が目立っている、(上)の眺めの方が好ましいと思うでしょう。一方、女神像がどのよう

なところに建っているのか、そのまわりの状況も知りたい人は(下)の眺めの方が好ましいと思うでしょう。このように、視対象に手を加えると、眺めの評価が分かれる場合があります。したがって、視対象を整備するときは、「何を」見たい（見せたい）のかを明確にして実施することが大切になります。



写真9 自由の女神像の眺め  
(上) 剪定前の眺め (下) 剪定後の眺め

## まとめ

- 1 山地の眺める場所からは、見たいもの（山など）は遠方にあり、また自然らしさが求められるので、眺められる対象（視対象）の整備は考えなくてもよい。ただし、視対象が視点から近い場合はそれを対象として整備することが考えられる。
- 2 視対象が視点から近い場合、たとえば歩道沿線のまわりなどは整備することが考えられるが、その実施には労力と年月が必要になる。
- 3 視対象が視点から離れるほどその整備は

難しくなるが、整備によって見たいものや視点まわりの状況がより分かりやすくなる場合は実施することが考えられる。ただし、その場合は何を見たいのかを明確にして行う必要がある。

以上、視対象の整備について、その考え方を説明しました。さらに森林景観整備の全般について詳しくお知りになりたい方は拙著『森林景観づくり』をご覧ください。

今回は「シーケンス景観に配慮した整備について」説明します。

なお、森林部門技術士会のホームページのお知らせには、本稿のカラー版が掲載されています。景観は見るのが重要です。カラーで見るとよく分かり理解が深まりますので是非そちらもご覧ください。

(よしだ ゆきお)